

現代倫理道德研究会（発表要旨）平成 30 年 7 月 18 日

道德の起源と進化
—自然史の視点から— [1]

生命環境研究室
廣池千九郎研究室
客員教授 立木 教夫

今回は、マックス・プランク進化人類学研究所の進化人類学者、マイケルト・マセロ (Michael Tomasello) の『人間の道德の自然史』(*A Natural History of Human Morality*, Harvard University Press, 2016) により、主に、彼の道德起源説の第一段階を考察した。

トマセロの道德起源説は二段階仮説である。約 600 万から 700 万年前に、チンパンジーとヒトの共通祖先が分岐し、第一段階目の道德が起源するのはホモエレクトスの時期で約 40 万年前、第二段階目の道德が起源するのはホモサピエンスの時期で約 15 万年前、と仮定している。これらの画期が設定された理由としては、生態学的変化、特に、寒冷化による生存の危機が指摘されている。

トマセロは、道德につながる基本的特性の核心に「協力」(cooperation) があると見ている。道德は、道德以前の大型類人猿、第一段階の道德を手にした初期人類、第二段階の道德を手にした現代人類と人類進化の中で変化してきたが、彼はこの変化を、「協力」を構成する 5 つ要素の変化を通して考察し、初期人類における二人称的道德の創発を提案した。この段階で最も興味深いことは、自然過程の中から道德、つまり、「べき」(ought) を含む規範性が出現してくることである。

次回の発表では、現代人類の道德を取り上げることにしている。